

**主体性**

●自ら求める ●鍛えやり抜く ●思いやる

<伝統・あいさつ・合唱・清掃>と<学習・ボランティア>の5つの柱をつなぐ指導

自ら求める

<研究主題>

学ぶ喜びを実感し、仲間と学びを創る生徒の育成
(岐阜教育事務所指定研修校2年目)

- 単位時間の役割を明確にした年間・単元指導計画や単元構想図の作成
- 学力の実態分析からの授業改善
- 自己の変容や学びを実感させるための評価の工夫

自己存在感(居場所)が感じられる集団の育成

- 生徒自ら価値ある活動を見つけ取り組む活動(生徒会・クラス長会を軸にしたキャンペーン活動など生徒を前面に出し、一人ひとりに自己存在感をもたせる活動の充実)

鍛えやり抜く

仲間と共に活動することを価値づけ、願いや目標をもち共に努力しようとする意識の育成

- 目指す自分や目標に向け努力する姿やその想いを価値づけ、真面目に頑張ることの大切さを意識づける指導(生活ノートや学年・学級通信等を通して)
- 仲間と協力して活動することの価値を共有するとともに、支援が必要な生徒も学級の一員として関わることができる指導(仲間同士の呼応、教師の個別指導と見届け)
- 那加中の伝統の再確認と意識化を図る。(あいさつ・合唱・清掃を生徒だけでなく、教師も意識して指導しきる)

思いやる

「当たり前のことが当たり前にできる」「誠実さが大切にされる」生徒の育成

- いじめ防止 令和2年度に改訂された那加中人権宣言の継承 令和4年度同様、ひびきあいの日だけではなく一年を通して生徒の心を育てる
- 生徒会活動の一層の活性化を図り、自分たちの学校を自分たちの力でより良くしようとする校風づくり
- 生徒同士の絆づくり
お互いの気持ちを理解し、良さを認め、共感し合うことで力を合わせ頑張れる、安心できる人間関係づくり(アセス、SST、コグトレの実施、HLの有機的な取組の継続)

5年度の合言葉<<生徒の居場所と絆を大切にしたい魅力ある学校づくり>>

より深い生徒理解と意図的・計画的な指導 生徒と共に伸びる教職員集団をめざす

<特活指導部会>

活動の意義や目的を明確にし、互いを理解し関わり合いながら、自らの力で生活を改善していくとともに、望ましい人間関係を築く生徒

- ・問題解決を通して規律と思いやり、活力ある集団の育成
- ・創造的で活気ある生徒会活動
- ・自己理解と自己実現につながる進路指導
- ・自己肯定感のもてる特別支援教育

<生活指導部会>

基本的な生活習慣を身につけ、自己を見つめ生活を正しルールを守る生徒

- ・基本的生活習慣の確立に向けた生徒同士の点検・呼びかけ活動
- ・安全で美しい学習環境作りに向けた保健安全指導
- ・やりきった充実感につなげる清掃指導(本物の清掃を求め続ける)

<学習指導部会>

分かるできる自分を目指し興味をもち主体的・継続的に学び続ける生徒

- ・新学習指導要領の全面実施を受け、カリキュラムマネジメント及び指導と評価の一体化を図る
- ・自己を見つめ他を思いやる道徳人権指導
- ・教育DX(デジタル・トランスフォーメーション)の推進
※デジタル技術を活用した教育改革の一層の推進

家庭・地域

地域行事への参加や学校開放を行うと同時に、地域や家庭の教育力を活用し、地域の方と触れ合う機会をもたせ、「ふるさと“那加中校区”のよさを知り、誇りに思う生徒」を育てる。

- 地域活動に積極的に参加し地域の方との触れ合う活動を通して、地域の一員としての実感をもつ。
- 子どもの頑張りが成長を積極的に伝え、問題行動だけでなく普段から家庭との連絡を密にし、信頼関係を構築する。保護者の気持ちを受け止めながら粘り強く頑張る指導を家庭に勧める。
- コミュニティースクールを活用し、明るいあいさつと自らボランティアができる生徒を育てる。

令和5年度学校経営の方針と重点

先日、令和5年度前期生徒会の委員長面接が行われました。生徒会執行部の立候補の際と同様、どの立候補者にも共通しているのが「活動の意味（目的）を理解した活動」「一人ひとりの思い（想い）を大切に」「仲間の活動の良さの背景にあるものに気付く」というワードが散りばめられていたということです。

この数年間で、那加中学校において大きく変化したものがあります。それは、子どもたちの意識です。数年前も「良さ見つけ」なるものは存在していました。しかし、正直「これが中学生の良さみつけなの？」という疑問を感じるものも数多くありました。その例が「消しゴムを拾ってくれてありがとう」に代表されるものです。

令和4年度、「5年先を考えた教育実践、教師・生徒ともに大切に継承される学校運営 ～意味指導（全ての教職員が共通理解のもと全ての生徒に納得できる指導）～を行ってきました。教師が活動の意味にこだわったからこそ、子どもたちの言葉に、「活動の意味を考え」や「仲間の思い（想い）を大切にする」という言葉が当たり前のように出てきたと思います。そして、意図的な指導を積み重ねた結果がGOODシーンの内容にも表れています。そこには、仲間の頑張っている姿だけに着目するのではなく、その背景にある心情に心を寄せ、共感するという営みを綿々と紡いできたからこそであると実感しています。それも、最初は教師が一方的に認め、価値づける場面が多かったのではないのでしょうか。

そこで令和5年度の合言葉を

《生徒の居場所と絆を大切にした魅力ある学校づくり》

より深い生徒理解と意図的・計画的な指導 生徒と共に伸びる教職員集団をめざす

としました。

生徒の居場所は教師がつくるもの、絆は子ども同士がつくるものです。

2月の心をつなぐ会の際、3年生のBさんが語った『「明日の学校、楽しみ」そう思えるようになったことが、3年間で一番成長したところだと思います。正直、1・2年生の時は学校に行くことがあまり好きではありませんでした。毎日、勉強や人間関係で悩み、いつもどんよりした暗い顔をしていたと思います。でも、今はたくさん笑ったり、仲の良い子と冗談を言い合ったりして、楽しく学校生活を送ることができています。』・・・を覚えてみえる先生方も多いと思います。心をつなぐ会の数日後、朝の一分間スピーチの場面で、満面の笑みで堂々と話をしているBさんの姿を見て、心をつなぐ会の話とつながりました。

1・2年の担任だったT教諭が悪いと言っているわけではありません。彼の「なんくるないさ～精神」も子どもたちの心をつかんでいましたし成長もありました。もちろんBさん自身の成長もあると思います。ただ、毎朝教室を回って気づいたことは、熊澤先生の①しつとりとした話、②笑いにあふれた話、③厳しく迫る話など子どもたちの心に響く話をたくさん拝見することができました。4月当初は初めてである担任や仲間に不安そうだった子どもたちの顔が、月日を重ねるたびに変わっていきました。そこには、「この先生なら、自分たちのことを全力で守ってくれる。何を話しても許し、支えてくれる仲間がいる学級だから大丈夫」といった安心感（居場所）がありました。

世の中の風潮として心配していることがあります。それは、コロナを理由に本来行うべき指導から学校が逃げているのではないかという事象が増えたことです。例えば、寒いからといって教室の中でジャンパーを着ていてもOKだとか、掃除を無くして業者に任せるだとか、雑巾を使わずモップだけで済ませるといったことです。我々が携わっているのは義務教育です。卒業式でも話したように、中学校は大人になるための準備をする学校です。もちろん、そこに人権を尊重することや主体性をもたせることを忘れてはいけません。しかし、人格が未完成な子どもたちに、「自由にしていよいよ」「君たちに任せるからいいよ」「この約束を守ったら、校則を変えてもいいよ」といった安易な指導は、学校の荒れにつながることは肝に銘じなければいけません。

今、那加中学校では前述したように子ども同士が心と心をつなごうとしています。それはまさしく絆づくりをしているといってもいいでしょう。

だからこそ、厳しい言い方かもしれませんが、授業力がある教師とそうでない教師、学級経営に見通しのある教師とそうでない教師、それによる学年間・学級間・教科間・教師間に差が出るのは、教師の指導力の差以外の何物でもありません。教師の指導力の問題で、子どもたちの大切な一生（一年）を無駄にすることは、教育のプロとして決して許されません。ここは、肝に銘じるべきです。

そこで・・・

<教師サイド> 子どもと心を通わせる教師であるために・・・

- ・教師一人ひとりが学校の教育目標である「主体性」を意識する。
 - ① 根拠と見通しをもって ② 改善策を考え ③ より良いものを生み出す・
 - ※例「どうしたらいいですか？」× ⇒「こういう方針で行きたいですがどうでしょうか」○
- ・授業力をつける。これ無くして学校の安定なし。（子どもの信頼を得るためにはこれが必要不可欠）
 - ⇒研究推進の提案を受け、授業力をつけるための手は抜かない。
 - ※事務所指定研修校 2／3年目
 - 発表の年じゃないからいいではなく、子どもたちに力をつけるための日々の実践研究
 - ⇒学習指導要領の全面实施3年目、指導と評価の一体化
 - （生徒だけでなく保護者も納得できる評価：説明責任 ※3観点の説明責任）
 - ※挙手を頑張る理由→「成績が良くなるから」と子どもに言わせているようでは情けない。子どもは教師の指導の鏡です。
- ・活動の形骸化からの脱却
 - ⇒昨年度同様、意味指導をすべての職員が同一步調で行う。
 - ※一人の勝手な判断で学校が苦境に陥ることはいくらかでもある。常に組織としての判断を求める。
 - Scrap & build （buildは最小限に、子どもにとって必要のないものはscrap）
 - Ex)
 - ① 令和2年度に再考した那加中人権宣言 （生徒会を中心とした継続取組・意識づけ）
 - ② 総合的な学習の時間の系統化と柔軟な対応（コロナの影響を考慮する）
 - ③ 各指導部で提案される内容に、年間を通して居場所・絆づくりの視点を位置づける
- ・SSTの継続
 - （系統的に実施：小学校との連携、やりっ放し×、検証の方法を教師が知って指導につなげる）
- ・アセスの年3回実施による学級の人間関係、一人ひとりの困り感の把握（小学校との連携）

<生徒サイド> 仲間同士心を通わせ、落ち着きの中にも活力があふれる学校にするために

- ・最優先課題は、「自治力」
 - ※自分たちの生活をよりよくするために、仲間の良さに気付き、自ら考え実行できる集団になってきた。これは是非継承したい。良いものは認め合い、ダメなものはダメと指摘し合える集団に。
- ・昨年度行った「ひびきあいの日」に関わる見通しをもった人権教育の推進と那加中人権宣言の継承（意味づけ・具体的な活動への方向づけ）
- ・教師サイドの動きと生徒会活動とのリンク（やらされているのではなく、生徒が主体的に動く姿へ）
 - ⇒手柄は生徒（うまくいっていることを、教師の手柄にしない）
 - ※とにかく形だけの活動にならないこと。意味指導・心を込めた活動

- ・各行事と日常をつなげる。(取組のための取組は×)
- ・那加中の伝統の再確認。特に、那加中スタイルとして定着し始めた掃除の継承と発展、5本柱と関わらせながら子どもたちが意識し、誇りに思えるものにする。
清掃・合唱・あいさつ・学習・ボランティア(教師・生徒共に自信をもって言える学校に)
※そのための教師だけでなく生徒同士が意図的な①意味づけ、位置づけ、②価値づけ ③方向づけ を
することで自分たちの成長の実感につなげる。

■ 4月当初、いつもお願いしていることです

(1) 那加中学校を愛してほしい

- ① 「この学校」× ⇒ 「うちの学校」○ ここにその人の心の内が現れます。
- ② 自分自身が那加中学校の良い情報発信を心掛ける。⇒ 子どもの幸せと心の安定
※悪い情報は、良い情報の10倍のスピードで広がる。(ここだけの話・・・大好き)
子どもや職員の悪口を外で言いふらしている多くは、教職員であることがほとんど
- ③ これまでの職場の自己評価はいりません。今、那加中に対して何ができていますかです。
自慢話ばかりで実践力がなければ、信用を失います。

(2) 職員が仲良くすること

我々も人間です。育ってきた環境や年齢も違います。子どもたちに「お互いを尊重して仲良くしよう」といっている職員同士がいかがみ合っているのは話になりません。職員の仲間関係が良くない学校は、絶対にいい学校にはなれません。子どもたちはよく見ています。肌で感じています。環境が整わず美しくない学校と職員の意思疎通が図られていない学校は、見事に荒れます。

(3) 「ごめんなさい」では決して許されないこと

生命尊重、時間・期限、物・金の管理、成績(進路に直結) 多くの目でチェック

(4) トラブルは必ず起こるもの

- ①大切なのは、初期(早期)対応 炎上の原因の大半が初期対応ミス
- ②自分のところで抱え込まない 組織で判断し、組織で対応する
- ③悪い情報ほど早く主任・管理職まで報告する。⇒ 一人ひとりの職員を守ることに。
※学校は1か月あれば荒れます。しかし、それを回復するために数年かかります。